

月刊



平成23年5月1日発行 通巻184号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

湖国が滋る・水と緑の街づくり

CONTENTS

- ・総会案内 2
- ・東日本大震災の被災者救援のための義援金の募金について
- ・震災に関する連合会からの情報提供
- ・定期講習受講申込みお待ちしております 3
- ・事務局からのお願い
- ・女性部会 DoシリーズNo58 開催のご案内 4
- ・大津市からのお知らせ
- ・一級建築士試験に関するご案内 5
- ・塗料の進化を、ご存知ですか?
- ・アイ・湖国びとの愛情視線 第4回 6
- ・支部だより 7
- 湖南支部・湖西高島支部
- ・5月の暦
- ・「あきんど号ラリー参戦記」(第5回) 8
- ・滋賀の街道 (八幡堀)



滋賀の街道 (第19回)

朝鮮人街道

「朝鮮人街道」とは朝鮮からの使節「朝鮮通信使」が通った道が「朝鮮人街道」と呼ばれ、今もその名を残しています。

徳川家康は、断絶が続いていた日朝関係の回復を願い、対馬藩を通じて朝鮮へ幾度と使者を送り、国交の回復に努め、慶長12年(1607年)、正式に使節を迎え入れることとなり、以後、文化8年(1811年)までの間、計12回の通信使が日本にやってきました。

通信使の一行はソウルを出発し、海路で対馬から瀬戸内海、淀川から京都へ到着、その後は陸路で中山道・東海道を通過し江戸を目指すという行程で、その長さは約2,000kmに及び、その期間は往復で約1年もの歳月を費やしましたが、この長い道のりの中で「朝鮮人街道」と呼ばれるのは、現在の野洲町小篠原から安土・八幡を経て彦根市鳥居本までの約40kmに限られています。

朝鮮人街道の起こりは、織田信長が安土城築城の際に京都までの道を結んだことによります。中山道の「上街道」に対して「下街道」と呼ばれたり、琵琶湖岸を走ることから「浜街道」とも呼ばれていました。一説には、日本の狭さを隠し、広く見せるため、わざと迂回し曲折した道を通行させたと言われる説がありますが、大名行列との鉢合わせをさけたことや、時には500名にも及ぶ人間の宿泊や休憩先を考えると、彦根や八幡を通ることが最も適していたと考えられます。(参考文献：近江八幡観光物産協会ホームページ)

平成23年度 通常総会開催のご案内

本年度の通常総会を下記の通り開催いたしますので、ご出席いただきますようお願いいたします。
また、総会にさきがけ、青年部会・女性部会合同通常総会を行いますので合わせてご出席ください。
なお、会員のみなさまには、ご案内を送付させていただいております。詳細はそちらをご覧ください。

- 開催日 平成23年5月28日(土)
- 開催場所 大津プリンスホテル 滋賀県大津市におの浜4-7-7 TEL.077-521-1111
- 開催時間 青年部会・女性部会合同通常総会：13:00～14:30
通常総会：15:00～17:00
懇親会：17:30～19:00

懇親会にご出席の方は、参加費5,000円をお支払い下さい。参加費の内1,000円を義援金として日本赤十字社等を通じて被災者の方々にお届けさせていただきます。

- 申込〆切 平成23年5月20日(金)まで
- ◎ご出席の有無を必ずご返信ください。(ご欠席の方は委任状をお出してください。)
- ◎懇親会がございますのでお車でのご来場はご遠慮ください。

東日本大震災の被災者救援のための義援金の募金について

本会では、被災地を支援するための被災者救援の募金を受付けています。皆さまからの義援金は、震災の被害が甚大かつ広域におよんでいることから、日本赤十字社等を通じて被災者の方々にお届けさせていただきます。募金へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 募金窓口：郵便振替（郵便局・ゆうちょ銀行）
- 口座記号番号：009900-6-301149
- 口座加入者名：社団法人 滋賀県建築士会

取扱期間 平成23年4月1日(金)～平成23年5月31日(火)

- *郵便局備付け用紙をご使用ください。手数料が必要となりますことをご了承ください。
- *郵便振替用紙には、支払人住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
- *郵便窓口でお受取りいただきました半券（受領証）は、大切に保管してください。

震災に関する連合会からの情報提供

社団法人日本建築士会連合会のホームページに東日本大震災関連情報サイトが特設されています。ここでは、連合会からの情報、行政情報、被災者向けの情報が集約されています。行政情報では国交省、消防庁、警察庁のほか、被災各都県の震災情報へのリンクがあります。

また、連合会青年委員会のホームページにある「みんなでがんばろう日本」というバナーをクリックすると、被災地域で活動する地元建築士からの情報を知ることができます。



建築士会連合会のサイト



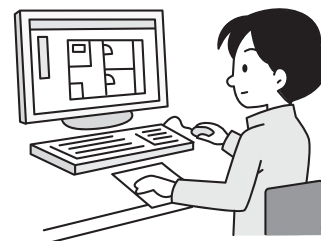
連合会青年委員会のサイト

東日本大震災関連情報サイト
<http://www.kenchikushikai.or.jp/3.11/index.html>

平成23年度 第1期 一級・二級・木造建築士定期講習 受講申込みまだまだお待ちしております!!

4月号にてご案内いたしました定期講習のお申し込みをまだまだ受けております。
所属建築士の方は3年ごとに受講することが義務付けられていますので、まだ1度も
受けておられない方は、受講くださいますようお願いいたします。

- ◆開催日：平成23年6月17日(金)
- ◆開催場所：ピアザ淡海 大津市におの浜1-1-20
- ◆定員：200名
- ◆配布・申込時間：午前9時30分～午後4時30分
- ◆受講手数料：テキスト代を含む15,750円（内消費税750円）
- ◆配布・申込：詳細は4月号をご覧ください。



*期間中であっても、申込書の配布部数が予定部数に達した場合、また、定員に達した場合、
配布および受付を終了します。

- ◆お問合せ：(社)滋賀県建築士会事務局 ☎077-522-1615

事務局からのお願い

会員のみなさまに建築士および施工管理技士の登録について確認をさせていただきます。
お持ちの建築士および施工管理技士の登録番号をお知らせください。
また、みなさまご存じのとおり、本年は会員名簿発行年となっております。2009年の会員
名簿発行後、ご変更されました方はご連絡ください。なお、名簿は本年末発刊の予定です。

建築士／施工管理技士登録番号

お名前	支部名
建築士／ 施工管理技士 登録番号	一級建築士 第〈 〉号
	二級建築士 都・道・府・県 第〈 〉号
	木造建築士 都・道・府・県 第〈 〉号
	施工管理技士 級 第〈 〉号

名簿記載事項に変更のある方は、下記もご記入ください。

変更項目	(該当項目に○印) 氏名・自宅住所・自宅TEL・勤務先名・勤務先TEL・勤務先FAX
変更前	



変更後	
-----	--

(社)滋賀県建築士会事務局 FAX.077-523-1602

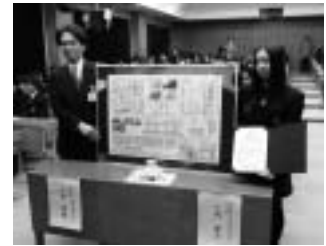
「建築甲子園」優勝作品 女性部会主催
～わたしのまちの油田～ 実建築をめざして
—“かばた見学”と未来の建築士を交えて車座井戸端会議—

昨年10月、第1回「建築甲子園」が開催されました。日本建築士会連合会、都道府県建築士会主催のもと、建築士を志す高校生を対象にしたコンペです。皆様ご承知のことと思いますが、滋賀県立安曇川高校総合学科建築デザイン系列1年(現2年)、古閑愛美さんの作品「わたしのまちの油田」が見事優勝いたしました。テーマ「地域の暮らし」に対して、地元の暮らしに根付いている川端を取り入れ、古さと新しさを融合し人と自然をつないだ楽しい暮らしを提案した作品です。地場産業の振興と環境保全も意識されています。

「人と暮らし」「まち・地域」「環境共生」「地場産業」こんなキーワードを含んだ作品を具現化してみようよ!、という考えから、川端を見学し、古閑愛美さんをはじめとした生徒さん、指導にあられた太田教諭、地元大工さん、古材屋さんも交えて意見交換会、別名、車座井戸端会議を開きます。

近い将来、建築の世界で仲間となるであろう未来の建築士たちとの交流も貴重な時間となることと
思います。多数のご参加をお待ちしています。

- 日 時：平成23年6月11日(土) 11:00～15:30 ●会 場：高島市新旭町針江周辺
- 集合場所：かばた館 高島市新旭町旭707 TEL.0740-25-3790 駐車場あり 最寄り駅：JR新旭駅(徒歩10分)
- 集合時間：10:45
- 日 程：11:00～12:00 川端(かばた)見学
- 12:00～13:30 かばた館にて昼食(郷土料理 しょい飯定食)
- 13:30～15:30
 - ・古閑さんによる作品発表
 - ・指導担当太田教諭のお話
 - ・～実建築をめざして～車座井戸端会議 甘いおやつもご用意しています。
- 会 費：会員/2,000円 会員外/2,500円《当日徴収致します。》 ●申込締切：平成23年5月27日(金)



昨年12月、同校で表彰式を受けた古閑さん(右)と太田教諭(左)



3単位



女性部会 DoシリーズNo.58 かばた見学と未来の建築士を交えて 6.11(土)

会員/会員外	お名前	連絡先 TEL (当日連絡用)
会員・会員外		
会員・会員外		

お申し込みはFAXにて…(社)滋賀県建築士会 事務局<FAX.077-523-1602> (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

■大津市からのお知らせ

開発事業の手引き改正に係る
説明会の開催について

大津市では、平成23年4月に開発事業の手引きを改正しましたので、説明会を下記の日時で開催致します。

説明会への参加を希望される方は、5月20日(金)までに、必ずFAXにて(大津市都市計画部開発調整課：077-523-1505)お申し込みください。参加申込書は(社)滋賀県建築士会のホームページに掲載しております。

なお、開発事業の手引きは、当日会場で販売いたしますが、大津市のホームページにおいても公開しております。また、説明会開催日以降は、大津市建築指導課(大津市役所本館3階)でも販売いたします。

- 開催日時：平成23年5月27日(金)
受付 9:20～ 説明会 10:00～
- 開催場所：明日都浜大津 4階
大津市ふれあいプラザ ホール
TEL.077-527-8351
- 資 料：開発事業の手引き(平成23年4月)
…1冊 1,000円

*説明会当日はできる限り公共交通機関でお越しください。お車でのご来場の場合は、必ず最寄りの駐車場をご利用ください。

- お問合せは…大津市都市計画部開発調整課
担当 山川 TEL.077-528-2773

一級建築士試験に関するご案内



下記の日程で一級建築士受験申込書の配布・受付をおこないます。

●受験申込書の配布

- ①配布期間：平成23年4月25日(月)～5月13日(金)
(ただし、土、日、祝日は除く。)
- ②配布時間：午前9時30分～午後4時30分
(ただし、5月13日(金)は午後3時まで)
- ③配布場所
 (社)滋賀県建築士会事務局・彦根支部・湖西高島支部、(社)滋賀県建設業協会東近江支部・彦根支部・長浜支部、(財)滋賀県建築住宅センター

●受験申込書の受付

- ①受付期間：平成23年5月9日(月)～5月13日(金)
 - ②受付時間：午前10時～午後4時まで《時間厳守》
 - ③受付場所：(社)滋賀県建築士会
 大津市におの浜1-1-18 滋賀県建設会館 2階
 TEL.077-522-1615
- *詳細につきましては、試験案内・受験要領または下記ホームページをご覧ください。

●問合せ先：(財)建築技術教育普及センター本部

TEL.03-5524-3105

ホームページ <http://www.jaeic.jp/>

社団法人 日本塗装工業会「新材料・工法等 対外普及セミナー」 塗料の進化を、ご存知ですか？

塗装の目的の「保護」「美装」「機能」のうち、ここ数年「機能」の進化には、目覚ましいものがあります。低汚染、防かび、防水、超耐久性、遮熱などのさまざまな機能が結びつき、より新しい塗料が誕生しています。効果実験だけでなく経年結果も纏まりつつある今、塗装により塗料の機能を再確認していただくためのセミナーです。今回、実演はございませんが、展示は致しております。

～このセミナーは、社団法人日本建築士会のCPD制度認定のセミナーです～



- 日 時：平成23年6月22日(水) 14時～16時30分
- 会 場：大阪塗料会館7F 大阪市中央区久太郎町1-8-9 TEL.06-6262-4976
- 対 象：設計事務所、ゼネコン等建築士の方々、官公庁 ●受講料：無料 (ご自由にご参加ください)
- 講演内容：☆『省工程・高機能塗装システムの提案』 講師：関西ペイント株式会社
 厚膜形成型省工程壁面防水材、錆止兼用仕上材料など、部位毎に新技術に基づく推奨(改修)仕様の紹介
- ☆『家 一軒丸ごと遮熱』 講師：日本特殊塗料株式会社
 ・改正省エネ法ビジネスについて (改正省エネ法と環境条例・各種助成金制度について)
 ・熱負荷シミュレーションについて

*会場には、上記2メーカーのみでなく、大日本塗料、日本ペイント、ロックペイント、スズカファイン、大塚刷毛製造の環境対応型、遮熱塗料の新製品を紹介するコーナーを設けております。又、日塗装が開発したフレックススウェード工法(美装を重視した芸術性の高い塗装工法)の展示も致しております。

- 申込方法：下記申込書に必要事項を記載の上、FAX又はメールにてお申し込み下さい。
- 締 切 日：平成23年6月13日(月)
- お問合せ・申込先：(社)日本塗装工業会 近畿ブロック会事務局

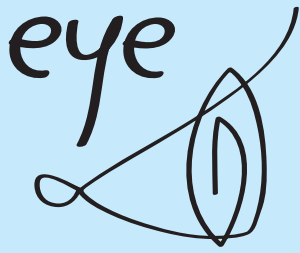


TEL.06-6362-3326 FAX.06-6362-3341 E-mail nittoosk@oak.ocn.ne.jp

(社)日本塗装工業会 セミナー 参加申込書 6.22(水)

貴社名					
参加者お名前・役職				役職名：	
所在地					
ご連絡先	TEL	-	-	FAX	-
【アンケート】 この講演会を 何でお知りになりましたか？	○で囲んでください。 1. 所属団体から 2. 日塗装会員から(会員名) 3. その他() 4. 日塗装ホームページから				

お申し込みはFAXまたはメールにて…(社)日本塗装工業会 近畿ブロック会 事務局 (FAX.06-6362-3341)(メールアドレス nittoosk@oak.ocn.ne.jp)



— アイ・湖国びとの愛情視線 —

第4回 画家 ブライアン・ウィリアムズさん

景観は環境の健康をはかるバロメーター



ブライアン・ウィリアムズさん

1950年、アメリカ人の両親の赴任先ペルーで生まれる。青少年時代を南米で過ごし、カルフォルニア大学で美術を専攻。1972年来日。大津市伊香立で妻と暮らす。

世界をスケッチ旅行する中で日本の自然の美に心惹かれた。とりわけ琵琶湖の風景に深く魅せられ、1984年から素朴な里山が広がる大津市伊香立向在地町に居を構えて四季折々の風景を描き続けている。

「美しい、描きたい、と思うのは曲線。自然が織りなす曲線美にいつも心を動かされます」。迷路のように神秘的な入り江。風に揺れるヨシ。水鳥が作る波紋。遠く連なる山の稜線。そんな、たおやかな光景に出会うたびに感動を覚える。画家の心が突き動かされ、絵筆を握る瞬間だ。もちろん目に見える美だけに心を動かされている訳ではない。水の流れや動植物の営みなど、そこにあるものすべてがつながり合って景観が作り上げられていることを肌で感じるからだ。

生態系が保たれ、自然浄化作用が機能しているほど美くなる。ただ、現実はそのような心動かされる風景ばかりではない。湖岸整備の名の下に進む水辺環境の破壊、コンクリートで固められた川、山を切り開いての宅地造成など、自然を抑え込もうとするかのような開発が進む。機能や効率一点張りの、直線ばかりで構成された風景は無機質で生命感がなく、どこか寂しい。「景観は環境の健康をはかるバロメーターである」という信条は揺るぎなく、現状への危機感から自然保護活動に参加し、風景画家の立場から見た環境について講演するなど自然環境と調和する街づくりの大切さを訴えている。

景観に大きく作用するものとして建物にも目を向ける。利便性と経済性ばかりを追求した建物は自然となじまないだけでなく、最後は環境に負荷をかける廃棄物になる。自ら築100年を超える古い農家を改装して暮らしており、「地元の木を使って作られた丈夫で美しい家の価値にもっと気づいてほしい」と訴える。昔の暮らしをせよ、と言うのではない。暗く寒かった建物に天窗を付け、床暖房を取り入れた。「快適さを求めるのは自然なこと。新しい技術と工夫を加えれば使い続けられるものがたくさんある。だから、むやみに壊す必要はないのです」。

同様に、都会の新しい建物も工夫次第で美しい景観を作り出すことができると思う。屋上緑化でヒートアイランド化を抑え、雨水利用で省エネを図るなど、循環型の暮らしを意識した街づくりが進めば都会に新しい原風景を作ることは不可能ではないという。緑あふれ、新たな曲線が生まれた未来の街の風景を描く日が来るのを願っている。

(取材 M, Y)



大津市伊香立から琵琶湖を望む風景を描くブライアンさん



琵琶湖の岸辺の風景を描いた「かいつぶり天国」

あきんど号ラリー参戦記

1997年アジアラリー参戦

オーストラリアンサファリから6年ぶりにラリー復活することが出来た。1997年8月、第2回アジアラリーである。マシンも我々の師匠である横田氏が率いるチームACPが1991年パリ・ダカ（この年は「パリ〜ル・カップ」パリから南アフリカケープタウンの13,000km）に完走した4台の内の一台を譲ってもらい参戦することとなった。マシンは、国内最強の市販車であるランドクルーザー73。当時日本人でパリ・ダカ最多出場のチームが作ったマシンであり、ボンネットはカーボンケブラー製、マシンの隅々まで気を配った本格的なラリーマシンである。アジアラリーはアジアの人がアジアのためにアジアで走れるレースをめざして日本人が企画したレースである。この年は、マレーシア・クアラルンプールがスタート、タイ・バンコクがゴールの8日間4,000kmのレースであるが、最終目標はアジア諸国を巡り中国ゴールをめざすと言う。参加チームは地元が主体であるが日本からはチーム・マンダラ（当時日曜日昼のTV番組、島田紳助の「人間マンダラ」のチーム）の土建屋よしゆき、お笑いタレントの長原成樹、鈴鹿8耐ライダー田村君、元プロ野球選手のMr.スコットの4人が参戦し、チーム監督は元阪神の掛布雅之であった。掛布も紳助もよしゆきも偶然、我々と同じ歳で、出会ってすぐに不思議な親しみを感じる事ができた。当事のマレーシアは景気全盛の頃の日本そのもので、大きなスフィクスの



元阪神掛布雅之とスタートセレモニー会場 ダタランメルディカ

の隣にピラミッドの形をした大型店舗があり、地下5階からグランド階までの吹抜けのアイススケート場に驚



マレーシアジャングルを疾走する2代目アジアラリー

かされた。市内ではまだ乗用車よりピックアップトラックのような実用車が主流でモータースポーツはこれからという雰囲気であった。



ジャングルで横転した地元チーム

初めてのアジアでのラリーは過酷そのものであった。車検会場ではいきなり他のチームから「おまえ達の車はエアコンが付いていないから完走は無理だ!」と言われた。アジアラリーは、熱帯雨林のジャングルの中など、厳しい暑さとハードなコースを走り切る体力勝負の闘いであり、順位よりも完走と言われた。

ダタランメルデカスクエアというマレーシアで最も高貴な場所からマハティール首相のフラッグオフでスタートしたレースは、容赦なく我々に試練を与え、スタート3日目に四輪駆動が使えなくなり二輪駆動でのレースとなった。途中、故障は修理できたものと同じトラブルが出る可能性があるため、レースの大半は二輪駆動で走り、最後の最も険しいコースだけ四輪駆動で走行し完走することができた。ゴールした後、同じトラブルが出て二輪駆動でしか走れなくなっていた、冷や汗ものの完走である。しかし、順位はとても納得できる物ではなく総合11位であった。また、悔しい思いと「今度こそは…」と言う強い意欲が自分の中で沸き上がったのだった。

滋賀の街道(八幡堀)

近江八幡市内を通る朝鮮人街道からすぐの場所に八幡堀があります。

八幡堀は、安土城落城後、天正13年(1585年)に豊臣秀次(秀吉の甥)が八幡山に城を築き開町したことに始まります。秀次は、八幡堀と琵琶湖とを繋ぎ、湖上を往来する船を城下内に寄港させることで、人、物、情報を集め、さらに楽市楽座制を実施することで城下を大いに活気づけました。しかし、戦後、高度成長とともに埋め立てられ、駐車場や公園等に改修計画が進められましたが、昭和47年に近江八幡青年会議所が「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」を合言葉に、全市民へ浚渫と復元を呼びかけました。これは、「観光目的ではなく、今現在、我々が存在するのも八幡堀があったからであり、まちの歴史が詰まった堀を守らなければならない」という思いからでした。現在では昔ながらの風情を残しています。



(参考文献：近江八幡観光物産協会ホームページ)